

東海環状道の部分開通に伴い、 輸送の定時性に貢献！

- 大垣市内の交通が混在した際は、市内の移動でも高速道路を利用。
- 市内の道路が渋滞していれば、高速道路を利用することにより、所要時間を20分程度短縮することができる。
- 並行する国道258号の平均速度が改善。また、時間帯による速度のばらつきが、3分の1減少し、定時性が向上。
- 開通前と開通後において、並行する国道258号の渋滞時の所要時間が8分短縮

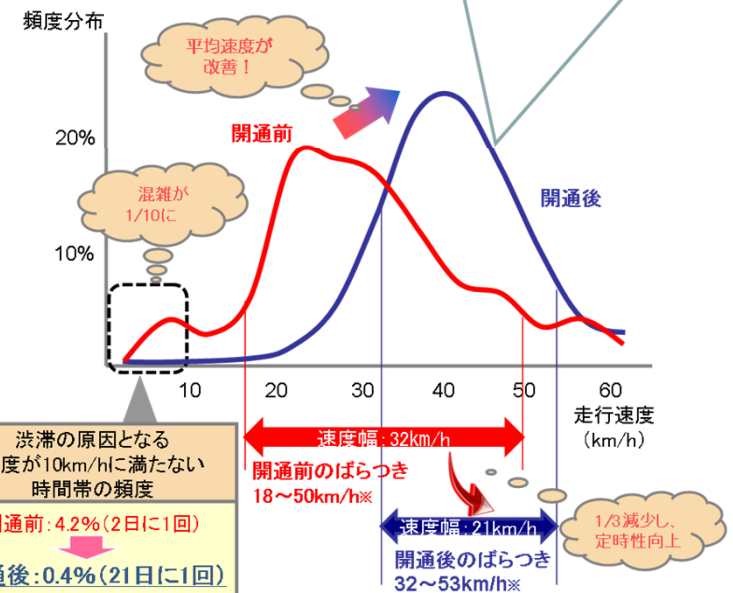


国道258号 楽田町⇒伝馬町の速度分布の変化



【グラフの見方: グラフの幅と高さ】

狭くて高い＝ばらつきが小さい
→いつも同じ速度で走れる
広くて低い＝ばらつきが大きい
→速度が不確定



東海環状道開通前後の意識変化のイメージ

開通前

国道258号が渋滞したら普段より20分くらい余計にかかるので、名神に乗る(大垣ICに着く)37分くらい前には熊野交差点に着けるように出なくては...

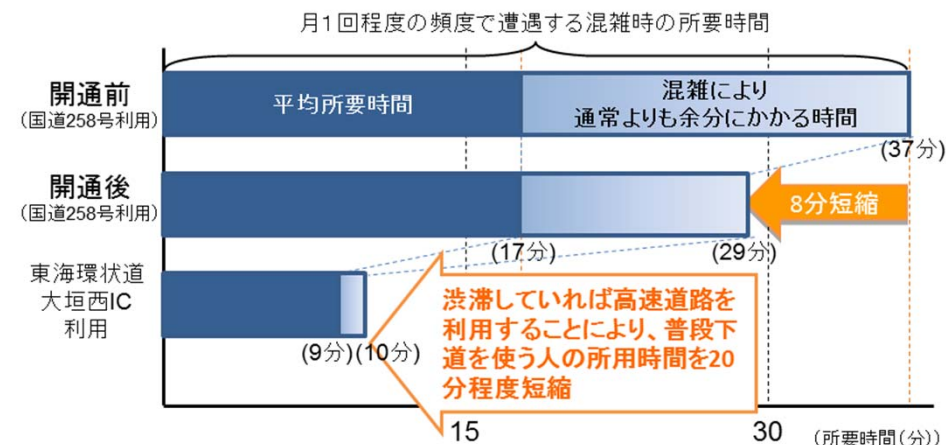
出発時間を
20分程度遅らせる
効果

開通後

普段は大垣ICまで下道を使いますが、渋滞していれば大垣西ICを使えばよいので、いつもどおりの時間(大垣ICに着く17分くらい前)に熊野交差点に着くように出ればよくなりました

※池田町・揖斐川町方面からくるドライバー

国道21号 熊野交差点⇒大垣ICの所要時間の変化



データ: 供用前(2010年9月1日~11月30日)、供用後(2012年9月16日~11月30日)の昼間12時間の旅行速度の変化を民間プローブデータにより算出した結果です。